

イエス・キリストは昨日も今日もそしていつまでも変わる事がない

メイコン ジョージア州 アメリカ合衆国

1955年06月03日

1 どうか覚えておいてください。神はご自身の教会の中に、ある者を使徒として、またある者を教師として、預言者として、伝道者として、そして癒しの賜物や種々の賜物を持つ者としてお立てになりました。これらすべては、キリストのからだを整え、完全なものとするために、神が教会において備えられたものなのです。

私は繰り返し申し上げますが、今、私たちは主の再臨の影の中を生きているのだと信じています。あの光は、初めに東の地——五旬節の日に、ユダヤ人の間に御霊が豊かに注がれた、あのとき——にまず現れました。

預言者は言いました。「昼とも夜ともつかぬ日が来る」と。どんよりと曇ったような、はっきりしない一日になると。しかしこうも言っています。「だが夕暮れ時には光がある」と。

初めに東の地——ユダヤの地で輝いたその同じ光が、今またこの時代の夕暮れに現れているのです。

私たちはこの間、神の賜物や神の力を否定するような時代を通過してきました。しかし、それでも神が生きておられること、キリストがその御子であられることを信じるに足る光は、絶えず残されていました。

そして私たちはその信仰を持ち、教会に加わり、神学校や学院を建て、さまざまな働きをしてきました。それらも確かに、感謝すべきことであります。

2 しかし、皆さん、あの光は最初、東の民に照らされたのです。そして私たちは、西の民です。預言者はこう言いました。「夕暮れ時に、光がある」と。私は、まさに今がその“夕暮れの時”だと信じています。

あのとき東のユダヤの地に輝いた太陽は、今、この終わりの時代に、日が沈む直前のこの西の地において、異邦人の上にも同じように輝いているのです。

もしかすると、あなたはそのようには思っていないかもしれませんが。でも、どうか今週、ご一緒に集まりましょう。心をひとつにして、小さな違いは脇に置き、今ここでただ真っ直ぐに神の御顔を仰ぎ見ようではありませんか。

「神よ、私は批判をするためにここに来たのではありません。あなたから学ぶために来ました。主よ、私を教えてください」と、心から祈りましょう。

もし誰かが知恵を欠いているなら、惜しまず与えてくださる神に願い求めなさい——と、みことばは語っています。そして私は信じています。神はきっと、ご自身をあなたに現してくださり、あなたにご自身を知らせてくださることでしょ。

3 さて、「神の癒し」についての教えですが……。トミー・オズボーン先生、トミー・ヒックス先生、オーラル・ロバーツ先生、そして世界中の多くの教師たち、それからF.F.ボズワース兄弟——私の巡回伝道のマネージャーのひとりでもあります——彼らはみな聖書に通じた立派な学者たちです。彼らは学び、訓練を受けた先生方であり、聖書の御言葉をもってサタンを完全に縛り上げ、その抜け道を一切なくしてしまうような力強い教えをなさるのです。

正直に言って、私にはそこまでできないかもしれません。私は貧しい家庭に育ち、学歴もほとんどありません。でも、私がケンタッキーの小さな山の中の丸太小屋で生まれたそのとき、ある出来事が起こったのです。一つの光が部屋の中に差し込んできました。そしてその光は、今日まで、私の人生のすべての日々において、私のあとを追い続けているのです。

私の先祖はカトリックでした。しかし、私の父も母も教会には通っていませんでした。私自身も教会に行った記憶はほとんどありません。生まれてから、そうですね、8日か10日ほどたったころ、母が私を古いサザン・バプテスト教会へと連れて行き、日曜学校で私を主にささげてくれたのが最初だったと思います。そしてその後、私が再び教会に足を踏み入れたのは、おそらく23歳のときでした。

けれどもその間ずっと、人生の歩みの中で、何かが起こり続けていたのです。まるで幻を見るような体験が幾度もありました。これから起こることを、事前に見せられるようなことが何度もあったのです。

4 私が後に回心してから、あるとき、私のまわりの奉仕者の兄弟たちはこう言いました——「それは悪魔の働きだ」と。それを聞いて、私は恐ろしくなりました。

なぜなら、皆さん、私も皆さんと同じように天国へ行きたいのです。私は主を愛しています——皆さんが主を愛しておられるように、私も心から主を愛しています。そして、私は間違った道を歩みたくありません。ただ正しくありたいのです。もし、自分が何かを間違っているとわかったなら、私はすぐにやめてその場を離れます。意図的に誤って伝えるようなことはしたくないのです。

私は正直でありたい。真実を語る者でありたい。そして皆さんの「兄弟」として、神様の祝福を受けた働きをしていきたいのです。

そしてある夜、私が一人でいたとき——主が私に語られたのです。この体験のすべては、この本に書かれています。今夜か、あるいは今後数日のうちに会場に届くと思います。

もし、皆さんの中でこの証しについて疑問を持たれる方がいらっしゃったら、どうぞ私の故郷の市の役所でも、教会でも、どこでも構いませんので、ご連絡ください。電話代は私が持ちます。そして、真実を確かめてください。すべてが本当であることを、きつとご確認いただけるはずですよ。

5 さて、今夜はこの集会の初日ですので、初めて来られた方も多いことでしょう。おそらく、今夜ここにおられる方々のうち、過去にこのような集会に参加したことがあるのは、ほんの一割ほどではないかと思います。

ですから、たとえ私がどんな話をして、それが十分に伝わるとは限りません。だからこそ、まずは御言葉の上にすべてを置きたいと思えます。今夜は「導入」として、少し短めにお話ししましょう。そして、もし主が許してくださるなら、明日の夜もまた集まり、このメッセージを続けていきます。

どうか、もし今夜すぐにすべてを理解できなかったとしても、ひとつだけ約束してください。「来続ける」ことです。そして心を開いて、聖書を調べてみてください。ノートと鉛筆を持ってきて、御言葉の箇所を自分で確かめてみてください。午後の集会にも出席していただければ、「癒しとは何か」について、より深く理解できるようになるでしょう。

私は、「癒し」は贖いの中に含まれていると信じています。イザヤがこう預言したとき、それはすでに語られていたのです——

「彼は私たちの咎のために刺し通され、その打たれた傷によって私たちは癒された。」

イエスがカルバリーで死なれたとき、実に、すべての罪人のために救いを成し遂げられました。けれども、それがあなたにとって意味を持つのは、あなた自身がそれを「個人的な救い主」として受け入れたときだけです。

同じように、主はすべての病人の癒しも、すでに成し遂げてくださったのです。しかし、それがあなたにとって現実となるのは、それを「自分自身のもの」として受け入れたときだけです。

「彼は私たちの咎のために刺し通され、その打たれた傷によって私たちは癒された。」

すべては、すでに過去形で語られているのです。神があなたのためにできることは、すでにすべて、イエスがカルバリーの十字架で成し遂げてくださった——罪人を神に和解させるそのときに、完了したのです。

6 これが、私が知るかぎり最も明確な「福音」です、皆さん。

あとは、それぞれの個人の問題です。「それなら、説教なんて意味がないじゃないか」と思うかもしれませんが、でも、それこそが牧師の務めなのです。神は、御言葉を語るために伝道者を遣わされました。あなたがその御言葉を聞き、それを調べ、真実だとわかったなら、それを受け入れるのです。

牧師があなたを救うのではありません。その説教そのものがあなたを救うのでもありません。あなたを救うのは、「よみがえられた主イエス・キリストを信じる、あなた自身の信仰」です。

どんなに激しく泣いても、どんなに大声で叫んでも、あるいはどんなに熱心に求めても、あなたが心の底から信じ、それを受け入れて、立ち上がり、告白しないかぎり、それは救いとはなりません。

というのも、主は私たちの「告白の大祭司」(ヘブル人への手紙3章)であり、私たちが真実だと告白することのために、とりなしをしてくださるお方なのです。

贖いの中に含まれていたすべてのことは、信じる者一人ひとりにとっての「個人の財産」です。

人が救われるとき——それが男性でも女性でも、少年でも少女でも——神はあたかも「小切手帳」を彼らにお与えになるのです。そしてその一枚一枚の小切手の下部には、「イエス・キリストの御名」が記されているのです。その小切手には、イエスが十字架で流された血によって与えられた、すべての贖いの祝福が含まれているのです。

それは、あなたの「個人の所有物」です。どうか恐れずに、その小切手に記入してください。天の銀行は、それを必ず受け取ってください。

イエスはこう言われました——

「何でも、祈って願うことは、すでに受けたと信じなさい。そうすればその通りになります。」

また、

「わたしの名によって父に求めることは、わたしがそれを行う。」

キリスト・イエスの中にあるこの約束——それは、限りない、探りつくせぬほどの富なの

7 けれども、そのようなこと(癒しや御業)を行う前に——まず神ご自身がその働きをなさり、そして次に神は、教会においてある人々を立てられます。たとえば、牧師、教師、伝道者、癒しの賜物を持つ者たち……。

ここで言う「癒しの賜物」とは、決してその人自身が癒す力を持っているという意味ではありません。その人が語っていることを心から信じ、その信仰が聖書に裏付けられているということです。

そのあとに「預言者」——つまり「先見者(seer)」もいます。こうした賜物は、「悔い改めによって得られるもの」ではありません。神ご自身が、あらかじめ決めて与えてくださるのです。これらの「務めの賜物(office gifts)」は神から遣わされたものであり、神によってあらかじめ定められ、教会に備えられたものです。

それらの賜物は、人がこの世に生まれてくるとき、すでにその人の内に「備え」として生まれついているものなのです。ただ、自分のいるべき「位置(ポジション)」を見つけ、キリストとともに歩み続けること。それが大切なのです。

こうしたすべての賜物は、神の御国の中に備えられています。そしてそのすべては、教会を整え、ひとつにするために与えられたのです。

さて今から、少しだけ聖書から御言葉を読みたいと思います。なぜなら、私の言葉は人の言葉にすぎませんが、神の御言葉は永遠であり、決して朽ちることがないからです。

それから、病気の方々のためにお祈りしたいと思います。前のほうには、祈りを求めてお並びになっている方々がおられるようですね。

ですから、今からほんのひととき、聖書の御言葉に耳を傾けていただき、そのあとで病めるの方々のためにお祈りいたしましょう。

8 この中で、「アップショー下院議員(Congressman Upshaw)」をご存じだった方はいらっしゃいますか? ジョージア州の議員だった方ですよ?

そう、あのアップショー議員こそ、私が幻を見たお方です。実際にお会いしたこともなく、彼のことも何も知りませんでした。あれはカリフォルニアの集会でのことです。彼はこのような会場で、車椅子に乗って運ばれてきました。

すると、私は幻の中で彼が子どものころ、干し草の山の上で遊んでいて落ち、背中を痛めた場面を見せられました。そして次の瞬間、彼が元気に歩いて、帽子をこうしてチップするようにして通りすぎていくのが見えたのです。

それで私は言いました——

「アップショー議員、あなたは癒されました。イエス・キリストがあなたを癒されたのです。」

すると彼は、松葉杖も車椅子も捨ててその場を去って行かれました。そしてその後、主が彼を天に召さ

れるまで、ずっと歩かれていたのです。足の指先にまで手が届くように——完全な癒しを受けて。

それでは、ユダの書から少し御言葉を読みましょう。今から約15分ほど、ご一緒に心を合わせて学びましょう。

ユダの書、第3節——

愛する者たちよ。共にいただいている救いについて、私はあなたがたに書こうと、あらゆる努力を尽くしました。そして、あなたがたが、ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰のために力を尽くして戦うように、勧める必要があると感じたのです。

そして今夜のテキストとして使いたい御言葉は、ヘブル人への手紙13章8節です——

「イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも変わることがありません。」

では、もう一度、静かに頭を垂れて、心をひとつにして祈りましょう。

9 天の父なる神様、

今夜ここに集っておられるこの愛すべき人々——この「陽光の州」ジョージアの地に住む方々——を感謝いたします。

この地には、かねてより信仰の証が広まり、国中に知られています。人々は謙遜で、あなたを心から愛し、礼拝しておられます。

この町に滞在する間にも、さまざまなビジネスマンの方々などが、集会のことについて語りかけてくださいました。

主よ、どうかこの町、そしてこの地方全体に、聖霊の豊かな注ぎがもたらされますように——どうかこの町を揺り動かしてください。

この地域にあるすべての教会が、昔ながらのリバイバルの炎を受けて、揺り動かされますように。罪人たちが悔い改め、あなたのもとに立ち返りますように。

どうか、無益なこのしもべをもお助けください、主よ。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

さて、今夜の聖書朗読に入りましょう。

もしメモを取りたい方がいらっしゃれば、小さなテキストとして書き留めておいてください——

「イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも変わることがありません。」

この御言葉の文脈を、今から皆さんとご一緒にたどってまいりたいと思います。

10 さてユダ書は、五旬節の出来事から30年以上が過ぎたころに書かれたものです。ユダはこの手紙の中で、教会に向かってこう勧めています——「ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰のために、真剣に戦いなさい」と。

では、ここでバプテスト教会の兄弟にお聞きしたい。「この御言葉について、どう思いますか？」

きっと彼はこう答えるでしょう。「それこそ、私たちが守り、戦っている信仰です。」

では、チャーチ・オブ・ゴッド(神の教会)の兄弟に尋ねてみましょう。「あなたがたはどうですか？」

「それこそ、私たちの信じていることです。」

ペンテコステ派の兄弟にも尋ねましょう。「それについて、どう思われますか？」

「もちろん、それが私たちの戦っている信仰です。」

長老派やメソジスト、どの教派の方々も、きっとこう言うでしょう——

「それが私たちの目指しているものです。」

そして私は、そう答える皆さんの言葉を信じます。本当に、そう信じています。

11 さて、こういうことがありました……。

ある人が私にこう言ったのです——

「ブラナム兄弟、それは私の信仰とは違います。」

そこで私は尋ねました——

「それは、どんな種類の信仰なんですか？」

——「私の信仰とは違うんです。」と。

でも、皆さん、聖書はこう言っています——

「信仰は一つ、主は一人、バプテスマも一つ、神も一人である」と(エペソ4:5)。

ユダの手紙には、「信仰のために力を尽くして戦うようにと勧める」と書かれています。しかもそれは、「ある信仰」ではなく、「ひとたび聖徒たちに伝えられた、その信仰」なのです。

そして今、私たち一人ひとりは、自分の教会がその信仰を保っていると言いたいのです。

けれども、確かなことを知る唯一の方法は、原点に立ち返ることです。

すなわち、初めの教会に与えられたその「信仰」とは、どのようなものであったのかを、聖書をもって調べるのです。

それが分かったならば、私たちは心から、その同じ「信仰の型」のために、真剣に戦うべきではないでしょうか？

——そう、皆さんもそう信じられるでしょう？

私たちは、その「信仰」のために戦うべきなのです。

12 ですから、私たちは「その信仰」を知るために、新約聖書のはじまりまでさかのぼらなければなりません。なぜなら、そこで初めて「聖徒たち(saints)」と呼ばれる人々が登場するからです。

新約聖書の最初に登場するのは、バプテスマのヨハネです。彼が語ったメッセージは、ただ一つ——

「悔い改めよ、天の御国が近づいたからである。」

ですから、「悔い改め」は、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰の中核のひとつであることは明らかです。

しかしヨハネ自身も、こう語りました——

「わたしの後に来られる方が、真の教師となられる。」

そしてその後、イエス様がバプテスマを受けにヨハネのもとに来られたときから、弟子たちも人々も、ヨハネではなくイエスに従うようになりました。

ヨハネははっきりと言いました——

「わたしは衰えなければならない。彼は盛んにならなければならない。」

そうです。イエス様こそが、クリスチャンの信仰を教会に紹介されたお方であり、キリスト教信仰のはじまりそのものだったのです。

13 では、心を低くし、敬意をもって、よく注意して見ていきましょう。

まず、私たちはイエス様が何をなさったのか、その生涯がどのようなものであったのか、何を教えられた

のかを見なければなりません。

そして、イエス様が教えられたことは、弟子たちに受け継がれました。

ところが、2世代、3世代と進むうちに、だんだんと軌道がずれていったのです。

だからこそ、ユダは手紙を書いてこう言ったのです——

「ちょっと待ちなさい。あなたがたは道を外れかけています。最初に聖徒たちに伝えられた信仰に立ち返り、そのために力を尽くして戦いなさい。」

彼らは、「踏みならされた道(the beaten path)」から外れかけていたのです。

ですから、初めに与えられていた信仰がどのようなものであったかを見つけることができれば、

私たちは今、どの信仰のために戦うべきかが明らかになります。

イエス様は——いわゆる「偉い人」を名乗られたことは一度もありませんでした。

とても謙遜な方で、他の人と違った服装をされたわけでもありませんでした。

律法学者や祭司たちのような格好でもありませんでした。

ただ普通の人々の中に入り、普通の人として歩まれました。だからこそ、人々はイエス様を見ても、誰であるか気づかなかったのです。

見た目は、他の人々と何ら変わりませんでした。

聖書の中には、イエス様が学校教育を受けた、という記録はどこにもありません。

けれども、イエス様はこの地上に生きた誰よりも深い知恵を持っておられました。

なぜなら、イエス様は、完全なる神であり、完全なる人であられたからです。

14 聖書の中を見ても、イエス様がどこかで学校教育を受けられたという記録はありません。そしてまた、イエス様がご自分のことを誇ったり、偉ぶったりされたことも一度もありません。

(お許しください、少し失礼な言い方になるかもしれませんが)

イエス様はご自身のことを「癒し主だ」とは一度もおっしゃいませんでした。

それどころか、イエス様はむしろ「癒すのは自分ではない」と、はっきり語っておられたのです。

イエス様はこう言われました——

「わたしがしているわけではない。わたしの内におられる父が、その業をなさっているのです。」

このことから、イエス様がどのようなお方であったか、少しわかってくるのではないのでしょうか？

もしイエス様が、今この地上におられたとしたら——どこにおられると思いますか？

イエス様は、「ご自身を歓迎する場所」ならどこにでもおられるでしょう。

イエス様は貧しい人々の中を歩まれました。当時の宗教的指導者たちは、イエス様を受け入れませんでした。

なぜなら、イエス様の教えは、彼らが受け継いできた伝統的な教えとは異なっていたからです。

しかし、イエス様の教えは、完全に「聖書的(Scriptural)」だったのです。

どうか今、このことをしっかりと心に留めてください——

イエス様の語られたすべての言葉は、まさに聖書そのものであり、どれ一つとして御言葉に反するものはありませんでした。

むしろイエス様は、聖書を「完全に成就する」お方として来られたのです。

ただ、当時の人々の「教え方」が、実際の意味とずれていたのです。

15 時々、私はこう思うのです——

私たちはこの1900年の間に、少しばかり道から外れてしまったのではないかと？

ほんのわずかでも、最初に与えられた道から逸れてしまったのではないかと。

もしそうであるなら、今こそ立ち返り、しばし立ち止まって見直してみましょう。

さて、イエス様が地上におられたときのことです。

主はヨハネからバプテスマを受けられました。そしてそのとき、主ご自身が証言されたように、聖霊が鳩のように下ってきて、主の上に留まったのです。

その後、イエス様は荒野へ行かれ、40日40夜の断食をされました。

そしてそこから戻られると、福音を宣べ伝え始められました。

その噂は周囲のあらゆる地域に広がり、人々が次々と主のもとに集まってきました。

イエス様は病人たちのために祈られ、多くの癒しが起こりました。

そして、偉大な「しるし」や「不思議(ワンダー)」が主のあとに続いたのです。

私は思います——イエス様は、いわゆる「非常に力強い説教者」というタイプではなかったのではないかと。

たとえばバプテスマのヨハネは、まさに「力強い説教者」でした。

けれども彼は、奇跡やしるしを一つも行っていない。

一方、イエス様はヨハネのように激しく語るのではなく、しるしと不思議がそのお働きに伴っていました。

そして主はこう言われたのです——

「もしわたしを信じることができないなら、わたしのする業を見て信じなさい。

わたしを信じられなくとも、父がわたしに与えてくださった証印——その業を見て、信じなさい。

わたしがする業そのものが、わたしが父によって遣わされた者であることを証しているのです。」

——なんという力強い御言葉でしょうか。

16 よく考えてみてください——

「わたしのする業が、父がわたしを遣わされたことを証しているのだ」とイエス様は言われました。

人間はいくらでも「自分はこうだ」と主張することができます。

けれども、その主張を神ご自身が裏づけてくださらない限り、

あなたには「それは違う」と言う正当な権利があるのです。

しかし、もし神ご自身がその主張をしるしと奇跡によって確証されるなら——

それを信じないことは、罪なのです。

では、「罪」とは何でしょうか？

罪とは、たった一つのこと——「不信仰(unbelief)」です。

その通りです。

「この一部分だけが夜です」なんて言えませんよね？ 夜はすべて夜です。

同じように、「この少しだけが昼です」とも言えません。昼はすべて昼です。

イエス様は言われました——

「信じない者はすでに罪に定められている。」

ですから、神への信仰と、不信仰——この二つが分かれ道なのです。

一方は罪へと至り、もう一方は救いへと至る。

17 私は思うのです——

あのニコデモという人こそ、当時のパリサイ人たちの姿勢をよく表していたのではないのでしょうか。

彼が夜、ひそかにイエス様のもとを訪ねたあの場面を思い出してみてください。

学識に富み、立派に教育され、洗練されたひとりのユダヤの教師——

そんな彼が、学位ひとつ持っていないイエス様のもとにやってきたのです。

年配の学者が、若きイエス様のもとに来てこう言いました——

「ラビ(あるいは、先生、師、牧師)、私たちはあなたが神から来られた教師であると知っています。なぜなら、神が共におられなければ、あなたがなさっているようなしるしを行うことなど、誰にもできないからです。」

……これはすごく核心を突いた言葉ですね。「私たちは知っている」と彼は言いました。

誰が“私たち”だったのでしょうか？

それは、当時のパリサイ人たち——つまり教師たちのことだったのです。

「私たちは、あなたが神から遣わされた教師であると知っています。神が共におられなければ、あなたのなさっている奇跡の数々は起こり得ないのです。」

これが、パリサイ人たちがイエス様について下した評価だったのです。分かりますか？

そして、教会が誕生した日の様子を見てみましょう。

五旬節の日、ペテロはこう語りました——

「イスラエルの皆さん……(つまり、“あなたがたは本来これを知っているべきだった”)

ナザレのイエスは、あなたがたの間で神に承認された方でした。」

何によって？

優れた神学教育によってではなく、

美しい弁舌でもなく、

立派な神学校の卒業証書によってでもありません。

ペテロははっきりと言いました——

「神がイエスと共におられ、あなたがたのただ中でなされた、しるしと奇跡と不思議によって、

イエスは神に承認されたのです。」

これは、そのしるしを見過ごし、気づこうとしなかった人々への厳しい叱責でもあったのです。

18 さて、イエス様がどんな奇跡をされたか調べてみましょう。さて、彼は周りを回って「この不自由な人を連れてきてください、私は彼を癒します」と言った人ではありませんでした。彼は決してそれを言いませんでした。

今日、彼らが神の癒しについて話すなら、彼らはこう言います。「連れてきて……この男を引き継いで、その神の癒し手が彼を癒すことができるかどうか見てみましょう。信じます。」兄弟、あなたはあなたにある精神が「十字架から降りなさい、そうすれば私たちはあなたを信じます」と言ったのと同じであることに気づいていますか？ それは同じ疑念の精神です。

19 さて、イエス様のご自身のご奉仕を始められたとき……

少しの間、その最初の歩みをたどってみましょう。主がどのように働かれたかを見てみましょう。

ナザレのイエス様のご自身の働きを始められたとき、

まず最初に、漁師たちが主の話に耳を傾けるようになりました。

そしてその中のひとり、ピリポという者が回心しました。

ピリポは、回心したそのすぐあとに、仲間のナタナエルを探しに出かけたのです。

——これは本物の回心の証しではないでしょうか？

自分が救われると、すぐに誰かを主のもとへ導きたくなる。それは、まさに聖霊の働きです。

ピリポはナタナエルを見つけると、こう言いました——

「さあ、一緒に来てくれ！モーセや預言者たちが語っていたお方、あのナザレのイエス、ヨセフの子を見つけたんだ！」

ナタナエルは正しく誠実な人で、整った教えを受けたパリサイ人でした。

彼は慎重にこう返します——

「ナザレから、何か良いものが出るだろうか？」

するとピリポは、とても良い答えを返しました。

「来て、見てみなさい。」

——そうです、それが一番確かな方法です。

「自分の目で確かめてみなさい。」

それがピリポの答えでした。

さて、ナタナエルとピリポは一緒に道を歩き、

おそらくイエス様が祈りを捧げたり、病人たちに手を置いておられた祈りの列 (prayer line) のような場所へと近づいていったのでしょう。

そして、群衆の中に入っていくと、イエス様がその人々を見渡され——

ピリポがナタナエルを連れて来るのをご覧になると、主はこう言われました——

「見よ、この人は、まことに偽りのないイスラエル人である。」

——なんと衝撃的な言葉だったことでしょう！

20 もし、今夜、アメリカで同じようなことが起こったらどうでしょう？

人々は何と言うのでしょうか？

きっとこう言うはずですよ——

「あれは“メンタルテレパシー(超能力)”だよ。」

「あの男は“人の心を読む”マジシャンに違いない。」

でも、当てもまったく同じことが言われていたのです。

けれども、ナタナエルは違いました。

彼は驚いてこう言いました——

「先生、どうして私のことをご存知なのですか？」

私はあなたに会ったこともないのに、なぜ私が誰かがわかるのですか？」

するとイエス様は答えられました——

「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたが木の下にいたとき、わたしはあなたを見たのです。」

それを聞いたナタナエルは、一切の疑いを捨てました。

彼はこう告白しました——

「あなたこそ、神の子です。あなたこそ、イスラエルの王です！」

するとイエス様は彼の方を向いて、こう言われました——

「わたしがあなたがいた場所を言い当てたから信じたのですか？」

それなら、あなたはこれよりもはるかに大きなことを見るでしょう。

信じるなら、さらに偉大なことを目の当たりにするのです。」

これが昔日のイエス様でした。

そして、これは今日のイエス様であるべきなのです。

もしイエス様が死からよみがえられ、今も生きておられるなら——

「昨日も今日も、そして永遠に変わらない方」なのです。

21 それから今度は、ピリポがアンデレを見つけました。

そしてアンデレが、自分の兄弟ペテロを連れて来ました。

ペテロがイエス様のもとに近づいてくると、

イエス様は彼の方を振り向き、じっと見て、こうおっしゃいました——

「あなたはシモンという名だが、これからは“ケパ”(小さな岩)と呼ばれることになる。」

——つまり、主は彼が誰なのかをご存知だったのです。

私には、ペテロが心の中でこうつぶやいているのが想像できます——

「いったい、どうしてあのお方は、私のことをご存知なんだ？」

私はお会いしたこともないのに……なぜ、名前までわかるんだ？」

——なんとも不思議なことだったでしょう。

22 ある日、ひとりの女性が群衆の中をかき分けて進んでいました。

イエス様のまわりには大勢の人々がいて、皆が手を伸ばして主に触れようとしていました。

その女性は、長年にわたり出血の病(血の漏れ)に悩まされていたのです。

持っていたお金もすべて医者には費やしましたが、誰にも治すことはできませんでした。

彼女は人知れず、イエス様の衣のすそにそっと触れました。

そしてそのまま、人ごみの中に紛れて身を隠しました。

すると、イエス様は突然立ち止まりました——

ここが大切な場面です。

主は振り返り、問いかけられました——

「わたしに触ったのは誰ですか？」

すると弟子たちは驚いて言いました——

「主よ、こんなに多くの方があなたに触れているのに、
なぜ『誰が触ったか』などとお尋ねになるのですか？」

しかしイエス様は言われました——

「いや、何かが違う。

わたしの内から“力(ちから)”が出ていったのを感じた。

誰かが“信仰をもって”わたしに触れたのだ。」

そしてイエス様は、群衆を見回されました。

やがて、その女性を見つけ出され、優しく語られました——

「あなたの信仰が、あなたを癒したのです。

あなたのその病——血の漏れは、今この瞬間に止まりました。」

これが昨日のイエス様です。

そしてこれが、今日のイエス様でもあるのです。

「あなたの信仰が、あなたを救ったのです。」

23 ある日、イエス様はサマリアを通過して行かねばならないことになりました。

でも、なぜでしょう？

エルサレムからエリコへ行くなら、普通はまっすぐ南へ下る道があります。

けれどもイエス様は、わざわざ丘を越えて、サマリアの方へと進まれたのです。

そのサマリアの町に着いたとき、主は井戸のかたわらに腰を下ろされました。

そして弟子たちを町へと遣わされました。

するとそこへ、ひとりのサマリアの女性がやって来ました。

なぜ彼女が昼の11時から12時ごろの、最も暑い時間帯に水を汲みに来たのか——

それは分かりません。

もしかしたら、前の晩遅くまで出歩いている、今ようやく起きたところだったのかもしれませんが。

あるいは、他の“まともな”人たちが井戸に来る時間を避けていたのかもしれませんが。

とにかく、彼女が井戸に来たとき、イエス様は壁のかたわらに座っておられました。

主は彼女にこう声をかけました——

「婦人よ、水を一杯、わたしに飲ませてください。」

ここから、一つの会話が始まるのです。

なぜ主はこの会話を始められたのか——ぜひ注目してください。

すると女は言いました——

「まあ、あなたはユダヤ人でしょう？」

サマリア人の私に水を求めるなんて、普通ではありません。」

イエス様は、そのやりとりの中でこうおっしゃいます——

「もしあなたが、今あなたと話しているこの方が誰であるかを知っていたら、

むしろあなたの方からわたしに水を求めたことでしょう。

そしてわたしは、あなたがこの井戸にくる必要のない“いのちの水”を与えたでしょう。」

すると彼女はこう言いました——

「でも、この井戸は深いのに、水を汲む器をお持ちではないでしょう？」

24 イエス様がこのサマリアの女性と会話しておられたのは、ある目的があったからなのです。

ここからは、聖書の言葉ではなく、私の個人的な見解です。

けれども、今日も同じように主が働かれる様子を見ている者として、私はこう理解しています。

イエス様は、彼女の霊とコンタクトを取ろうとしていたのです。

彼女は女性でした——そして、御父はイエス様に「そこへ行きなさい」とお告げになっていた。

だからイエス様はその場所で、彼女が現れるのを待たれたのです。

そして彼女が来ると、イエス様はすぐには奇跡を行わず、まず会話を始められました。

彼女の霊を見極め、心の核心に触れるためです。

そして、ついにその瞬間が来て——

イエス様は彼女の真の問題にまっすぐ切り込まれました。

「行って、あなたの夫を呼んできなさい。」

彼女は言いました——

「私には夫はおりません。」

するとイエス様はこう言われました——

「その通り。あなたには夫が五人いたし、

今一緒にいる男も、あなたの夫ではない。

あなたは本当のことを言ったのです。」

彼女は驚き、言いました——

「あなたは預言者であるとお見受けします。」

——さあ、ここが大切なポイントです。

皆さん、よく聞いてください。

このサマリアの女性は、血筋としてはユダヤ人と異邦人の混血です。

しかし彼女はこう言いました——

「私は知っています。メシヤ(救い主)が来られるとき、
あの方はすべてのことを私たちに語ってくださるでしょう。」

つまり、イエス様が示された識別の力こそが、

「メシヤのしるし」だと彼女は理解していたのです。

これはメンタルテレパシーでも、占いでも、悪霊による業でもありません。

もちろん、悪魔も似たような偽物を持っています。

けれども忘れないでください——

悪魔が持っているあらゆる偽物は、神が先にお持ちだった本物を真似て作ったものにすぎないのです。

25 気づかれましたか？

かのサマリアの女性は、こう言ったのです——

「あなたが誰なのかは知りません。預言者に違いないと思います。

しかし、我々は知っています。

メシヤ(救い主)が来られるときには、

すべてのことを私たちに教えてくださるでしょう。」

するとイエス様は、はっきりとお答えになりました——

「今あなたと話している私がそれである。」

その瞬間、彼女は水がめをその場に置いたまま、町へと駆け戻りました。

そして人々にこう言ったのです——

「来てごらんなさい。私のしたことを全部言い当てた人がいます！

この方こそ、キリストではないでしょうか？」

実際には、イエス様は彼女の人生の「全部」を語ったわけではありません。

たった一つの核心的なことだけを告げられただけです。

けれども、イエス様は御父が示されれば、もっと多くを語ることもできたのです。

26 イエス様を見てください。あなたはこう言うかもしれません——

「イエス様は、すべての人を癒されたんですか？」

——いいえ、そうではありません。

イエス様はこの地上におられたとき、すべての人を癒されたわけではありませんでした。

イエス様が地上におられた期間にも、多くの人々が亡くなっていったのです。

その中で、イエス様は三人をよみがえらせられました。

それは証人が二人または三人いれば、すべての言葉が確かになるという御言葉のとおりです。

実際、イエス様は多くの病人、足の不自由な人、盲人、苦しんでいる人々のそばを通り過ぎられました

癒されることなく、そのままにされました。

それをご存じでしたか？

では、ヨハネによる福音書 第5章を見てみましょう。

そこではイエス様がベテスダの池——五つの柱廊がある場所——を通られました。

これは、とても広い場所です。

聖書にはこう書かれています——

「そこには多くの人々が横たわっていた。

(東方の言語で“群衆(multitude)”という、二千人以上の規模です。)

足の不自由な人、盲人、病弱な人、手足の萎えた人々——

そうした多くの人々が、癒しを求めてその場所にいたのです。」

そして、ちょうど一人の女が衣に触れて癒された後のことです——

イエス様がそこを通られました。

そのとき、イエス様の衣には“力 (徳)(virtue)”が満ちていました。

けれども、それは**“それがある”**と信じる者にだけ流れる力だったのです。

27 ローマ兵たちはイエス様の顔を打ち、唾を吐きかけました。

しかし彼らは、何の“力(美德)”も感じることはできませんでした。

けれども、あの女性——

彼女は深い敬意と信仰を持って、

「このお方こそ神に遣わされた方、神の御子である」と信じていたのです。

だからこそ、彼女には力が流れたのです。

もしあなたが今夜、同じように敬虔な心でイエス様のもとに来て——

「主イエス様、私は信じます。あなたは今も変わらぬお方です」

——そう告白するなら、

その同じ“力”は今夜もあなたに注がれるのです。

あのときイエス様の背後には、

完全な贖いの血によるいけにえが控えていました。

今もそれは変わりません。

さて、イエス様がベテスダの池に向かわれたときのことに戻りましょう。

すでに彼は、あの女性に癒しを与えられたあとでした。

そこには、「大勢の病人たち」が横たわっていました——

足の不自由な者、目の見えない者、手足の萎えた者たち。

ちょっと想像してみてください——

では、少しドラマ仕立てに描写してみましょう。

そこにひとり、年老いたやせ細った女性がいます。

骨が皮膚を突き破りそうなほどやせ衰え、両手を差し出しながら——

「誰か、水の中に入れてください……」

イエス様——神の御子、力に満ちた方——が、そのすぐそばを通られます。

少し離れたところには、

関節炎で体がねじれたおじいさんが立っています——

「誰か、私を池に入れてくれ……」

イエス様はその人のそばも通り過ぎられます。

目の見えない盲人、

あるいは目の見えない赤ちゃんさえそこにいたかもしれません。

でも、イエス様はそれらすべての人のそばを通り過ぎられたのです。

——ある人のもとに来られるまで。

その人は、寝床に横たわっていた男でした。

イエス様は、彼がそこにいることをご存じだったのです。

そして彼にこう言われました——

「あなたは、よくなりたいのか？」

男は答えます——

「先生、水が動いたとき、私を入れてくれる人がいないのです。

行こうとする間に、ほかの人が先に入ってしまう。」

この人は、足が不自由だったわけではありません。

歩けてはいたのです。

おそらく前立腺の病気か、肺病か、何か慢性のもので、

命に関わるものではなかったのです。

38年間、それを患っていました。

イエス様はこうおっしゃいました——

「起きて、床を取り上げて、家に帰りなさい。」

そしてイエス様は、そのまま歩いて去って行かれたのです。

——あの愛と憐れみに満ちたお方が、

そこにいた何千人もの盲人、足の悪い人、萎えた手足の人々を

残したままにして去られたのです。

……もしこれが、今のアメリカ・メイコンの町で起きたらどうでしょうか？

きつこう言われるでしょう——

「なぜ、あの人は癒されたのに、他の人は癒されなかったのか？

本当に神の子なら、全員癒すはずじゃないか？」

でも——ここにこそ“秘密”があるのです。

28 そして、ここにおられるご奉仕中の兄弟姉妹方へ——

どうかヨハネによる福音書第5章をお読みください。

特に19節まで読み進めてください。そこでは、

人々がイエス様を問い詰めたときのやりとりが記されています。

さあ、皆さん、今からイエス様の御言葉に耳を傾けてください。

もうお時間が迫っておりますので、ここが重要なポイントです。

イエス様はこう言われました——

「まことに、まことに、あなたがたに言います。

子は、父がしておられることを見なければ、自分からは何もすることができません。

父がなさることは何でも、子も同じように行うのです。」

これは聖書にあります。ヨハネ5章19節——イエス・キリストの御言葉です。

もう一度、繰り返させてください。

「まことに、まことに(英語では“Verily, verily”——“確かに、絶対に”)

あなたがたに言います。

子は、父がしておられることを見なければ、

自分では何もすることができません。

父がなさることは、子も同じように行います。」

つまり、イエス様は非常に明確にこう仰っているのです——

「わたしは、父なる神がまず幻によって

わたしに何をすべきかを示してくださるまで、

一つとして、自分から何かをすることはありません。

父が示して下さったことだけを、

わたしは行っているのです。」

ベテスダの池で、主は寝床にいたあの人の癒しを御父から示されていたのです。

だからその人を癒された——それだけでした。

他の人々については、御父からは何も示されていなかった。

そして、これこそが——

真の神のしもべたちが、聖書の中で一貫して示してきた姿なのです。

どうか、御言葉を調べてください。

それが真理かどうかを、確かめてみてください。

29 エリヤを見てください。

彼は、たきぎをすべて並べ、いけにえをほふり、祭壇の準備を整えました。

そしてその後、主の前に進み出て、こう言いました——

「主よ、私はあなたの御言葉に従って、

あなたが私に示された通りにすべてを行いました。」

——そうです。「自分がこうしたいから」ではなく、

神が示されたから、それに従ったのです。

でも、私たちは時として——

自分の情熱や興奮に駆られてしまうことがあります。

心が乱れ、焦ってしまうことがある。

けれども、そういうときこそ——

立ち止まりなさい。静まりなさい。

そして、神を見上げ、心を尽くして信じるのです。

神だけが、それを成し遂げることがおできになるお方です。

分かりますか？

たとえば、この壇上でたった一人が癒されるとき——

その瞬間、客席にいる何百人もの人たちが同時に癒されるのです。

30 さて、イエス様について……

(もう一言だけ、お時間をください。ほんの少しです。)

ラザロが死んだときのことを思い出してみてください。

ちょっと不思議だと思いませんか？

ラザロが病気になりかけた頃——

イエス様は突然、家を離れてどこかへ行かれたのです。

ラザロはイエス様の親しい友人。

なのに、イエス様はあえてそこを離れていかれた。

きっと、批判者たちはこう言っていたでしょう。

「ほら、見ろ。

ああ言ってるけど、実際に目の前で何か起こったら、

イエスは何もしないじゃないか!」

「あんなの口だけさ。

だから逃げたんだよ、見られるのが怖くてね。」

イエス様は、家を離れ、遠くへ向かわれたのです。

そして、ラザロの病が重くなり——

医者たちがさじを投げるほどの状態になったとき、

マルタとマリアはイエス様に使いを送ります。

「どうか戻ってきて、ラザロのために祈ってください」と。

ところが、イエス様はどうされたでしょうか？

——その要請を無視して、旅を続けられたのです。

……おかしいと思いませんか？

とても不思議です。

イエス様は別の町に行かれました。

そこでも再び使いの者が来て、こう言います——

「ラザロが死にかけています!どうかお越しください!」

けれどもイエス様は——

またしても、それを無視して進み続けられたのです。

……もしこれを今の時代あなたの牧師がやったとしたら——

「なんて冷たい人だ!」

「信仰者のすることじゃない!」

——きっと、そう言われてしまうでしょうね。

31 しかし、注目してください——しばらく時間が経ってからのことです。

ここが大切なポイントです。よく聞いてください。

ある時が満ちたそのとき——

イエス様は、ご自身が御父から示されていた時が来たことを悟り、弟子たちにこう告げられました:

「私たちの友ラザロは眠っている。」

弟子たちは言いました——

「主よ、眠っているのなら、きっと良くなるでしょう。」

するとイエス様は、はっきり言われました——

「ラザロは死んだのだ。そして、あなたがたのために、私はそこにいなかったことを喜んでいる。」

なぜなら、もしその場にイエス様がいたら——

彼らはきっこう叫んでいたでしょう:

「主よ、癒してください!いますぐ何かしてください!」

イエス様はそうならないよう、あえて“そこにいなかった”のです。

そしてこうおっしゃいました——

「だが、今から行って、彼を起こしてこよう。」

——アーメン!

御父が、何が起こるかをすでにイエス様にお示しになっていたのです。

では、イエス様がラザロの墓の前で祈られた場面を見てみましょう。

イエス様はこう祈られました——

「父よ、あなたが私の願いをすでに聞いてくださったことを感謝します。

けれども、ここに立っている人たちのために、私はこう言います。」

つまりこれは——

イエス様が、御父から幻で見せられていたことを

今、そのまま“演じて”おられたということです。

なぜならイエス様は、こうはっきりと語っておられました——

「わたしは、御父がまず見せてくださらなければ、

自分からは何も行うことはない。」

32 それこそが、聖徒たちに授けられた信仰だったのです。

そして——聖徒たちはその信仰を守ったのでしょうか？

——確かに、守ったのです。

たとえば、ペテロ——

屋上で祈っていた彼は、ユダヤ人としての誇り高い生き方をしていました。

異邦人とは関わらず、彼らの食べ物にも手を出そうとはしなかった。

しかし主は、幻の中で彼に現れ、こう命じられました：

「立って、行きなさい。何も疑わずに。」

——それが御心だということ、はっきり示されたのです。

また、サウロ——

タルソのサウロは、手紙(逮捕状)を携え、

クリスチャンたちに脅迫を浴びせ、牢獄に入れるためにダマスコへ向かっていました。

しかしその途中、天からの強い光に打たれて馬から落ちました。

その光は、火の柱——

まるで太陽のように輝き、彼の前に現れたのです。

その光の中にキリストご自身が立っておられた。

それが、彼の人生を180度変え、

迫害者から、信仰の最も偉大な伝道者へと変えられたのです。

33 彼らはサウロを導いて街の中へ連れて行き、

彼はそこに留まり、祈りと断食に身を委ねていました。

その頃——街のずっと離れたところに、

「かつて聖徒たちに授けられた信仰のために戦っていた」

ひとりの男がいました。

その名は、アナニヤ。

ある日、アナニヤが祈っていたとき、

幻が彼の前に現れました。

「まっすぐという名の通りに行きなさい。

ある家を訪ねて、サウロという名の男のところに行け。

彼の上に手を置いて、彼の目が見えるようになり、

聖霊で満たされるようにせよ。」

しかしアナニヤは驚きました。

「主よ、その男がどれほどの悪事を働いてきたか聞いております。

私は彼が恐ろしいのです。」

すると主はこう言われました。

「見よ、彼はいま祈っている。」

この言葉を受けて、アナニヤは幻に従って立ち上がりました。

まっすぐ通りに下りて行き、噴水のある角を曲がり——

幻で見たあの家を探し、ついにたどり着きました。

そして家に入り、こう言いました。

「兄弟サウロよ。

あなたが道で出会ったあの主——

あなたを馬から打ち倒されたあの方が、私を遣わされました。

あなたが再び目が見えるようになり、

聖霊に満たされるためです。」

——これこそが、かつて聖徒たちに授けられた信仰なのです。

アーメン。

34 その後のことです——

パウロは「クレテから出航してはならない」と御霊によって警告を受けていたのに、

船長や船主たちは彼の言葉を聞き入れず、

そのまま沖へと出て行ってしまいました。

やがて嵐が起こり、

古びたその船は水浸しになり、十四日十四晩、

月も星も見えず、

全員が助かる望みを失っていました。

その船には、276人が乗っていたと聖書にあります。

パウロは、船の奥底——

暗く、揺れる貨物室のどこかで祈っていました。

そして、

船が激しく揺れる中、鎖に繋がれた小柄なユダヤ人のパウロが走り出てきて、両手を振りながら叫びました。

「皆さん、元気を出しなさい！」

まだ嵐は収まっていません。

船は相変わらず荒波に揺られています。

「昨夜、私の仕えている神の御使いがそばに立ってこう言われたのです——

『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。

そして、見よ、この船に乗っている者すべてを、神はあなたに与えられた。』」

そして、パウロはこう言い切りました。

「だから皆さん、安心してください。私は神を信じています。

神が私に示されたとおりになるのです。」

——この信仰こそ、嵐の中で光となる信仰。

そして、パウロのような人が、神の約束を持って世を照らすのです。

35 これこそが、「一度きり聖徒たちに授けられた信仰」です。

そして、私たちが本気でその信仰のために戦うように、神が今夜も憐れんでくださいますように。

イエスはこう言われました：

「しばらくすれば、この世はもうわたしを見なくなる。だが、あなたがたはわたしを見る。

わたし(I)——わたし自身があなたがたと共におり、あなたがたのうちにおる。世の終わりまで。」

イエス・キリストは、昨日も今日も、そして永遠に変わることはないお方です。

地上におられたとき、

イエスは大きな人物であるとは一度も主張されませんでした。

むしろ、ご自身を小さくされました。

けれど、天と地のすべてを所有するお方であり、

天と地のすべてを創られたのがこのお方——キリスト・イエスなのです。

それなのに、

イエスが地上で持っておられたのは、たった一枚の衣だけでした。

けれど、あらゆる綿の繊維も、

この地上に生まれるすべての羊も、

全ての命と物質も——

すべて、キリストによって創造されたのです。

小さく見えるけれど、最も偉大なお方。

それが、私たちの主、イエス・キリストです。

36 そして、イエスが地上におられたとき、何をされたか見てください。

御父が示されたことだけを行って歩まれたのです。

やがて去って行かれる時、イエスは弟子たちにこう命じられました：

「わたしがする業を、あなたがたもするようになる。

さらに多くのこと(greater works)をするようになる。」

ここでの「greater」は、「質的にもっとすごい」という意味ではなく、「量的にもっと多く」という意味です。

なぜなら、イエスはすでに死人をよみがえらせ、自然界を支配し、奇跡のすべてをされたからです。

これ以上の「質」はありません。

「わたしは父のもとへ行くからだ。」

そして、こうも言われました：

「しばらくして、世(world)はもはやわたしを見ない。

しかし、あなたがた(ye)はわたしを見る。

わたしはあなたがたと共におり、あなたがたのうちにいる。」

兄弟姉妹の皆さん、今夜この言葉をよく聞いてください。

あの日から今日に至るまで、「あなたがた(ye)」は常に存在してきました。

「世」は見ない。「信じない者たち」には見えない。

でも「あなたがた(信じる者)」には見える。

なぜなら、イエスご自身が、御霊として、

教会のうちに、信じる者たちのうちに生きて働いておられるからです。

そして、再臨の日まで、

聖霊は教会の中で、あの時と同じ業を続けられるのです。

私は心からそれを信じます。

イエスは確かによみがえられ、

今も栄光のうちに、御父の右に座し、

私たちの信仰の告白に対してとりなしをしておられます。

そして今夜も、聖霊は地上において、

イエスと同じ業を、彼に油注がれた器を通して行っておられるのです。

今は、終わりのときが近づく中で、すべてがその方向へ進んでいます。

残された「光ある時」に、目をしっかり向けていきましょう。

アーメン。

私は心の底から、それを信じます。

37 それでは、今夜祈りを求めてここに来ておられる皆さんへお話しします。

私たちは、皆さんが来られるたびに、できるだけ公平に、同じように扱おうと努めています。

最初のころは、祈りの列(prayer line)を作るときに祈りのカードを使わずに、

なんとか秩序ある形にしようとしたんですが、うまくいきませんでした。

オーラル・ロバーツ兄弟をはじめ、他の伝道者たちも同じ問題にぶつかってきました。

つまり、祈りのカードがなければ秩序が保てないのです。

最初はこうしていました：

祈りのカードをある牧師にすべて預けて配ってもらっていたのですが、

すると最初に来たグループだけが祈ってもらえるようになってしまい、

それで兄弟たちの間に不満や不和が生じてしまったのです。

そこで今度は、ある説教者にカードを配ってもらったのですが、

それもだめでした。

なぜなら、その牧師には友人が多すぎて、公平に配るのが難しくなってしまったからです

38 それで結局、初日にすべての祈りのカード(Prayer Cards)を配ってしまうと、

その後に来た人たちは祈ってもらえないことになるわけです。

なぜなら、祈ってもらえる人はそのカードを持っている人だけだからです。

そこで、私たちが見つけた最も正当で誠実な方法というのは、

毎日カードを配り直すというやり方です。

そして夜の集会のときに、

たとえば200人から300人くらいしか祈ることができない。

けれど、それは私のミニストリーのスタイルであって、

私は自分ができる限り的人数のために祈るようにしているのです。

ただ、祈っていくうちにとても疲れてきて、目の前がぼやけてきたら、

プラットフォームから私を降ろしてくれます。

そして翌日、また新しいプレイヤーカードを配り直して、プレイヤーラインが再び始まるのです。

今、皆さんにお願いしたいのは、

これからの15分から20分間、どうか敬虔な心で静かにお過ごしください。

心を静め、主の御前に出るつもりで、祈りの時に備えてください。

39 もしイエス様が死からよみがえられたのなら——いや、私たちは確かにそう信じています——そして今夜も生きておられるのなら、原則においても、力においても、その他すべての点においても、当時と変わらないお方であるはずですよ。ただし肉体の形を除いて。そうですね？

もし今、イエス様が聖霊のかたちでここにおられるのなら……そして実際にここにおられるのなら……

私は、このスタジアムに座っておられる皆さんにお尋ねしたいのです。今夜、イエス様が聖書の時代にどのようなお方だったかをお話してきましたが——思い出してください——イエス様は、誰にでも挑戦して「この人を連れてきなさい」「あの人を連れてきなさい」と言うような方ではありませんでした。

むしろ、静かに歩まれて、人々を通り過ぎることもあったのです。

けれど、父なる神が何かをお示しになった時には、それを必ず行われました。群衆の中に立って、時には彼らをじっと見つめ……そして何をなさったのでしょうか？ 彼らの思いを見抜かれたのです。

ちょっと強い言葉かもしれませんがね、兄弟。でも聖書には確かにそう書いてあります。「イエスは彼らの思いを知って言われた、『なぜ心の中でそんなふうに思うのか？』」——そんなふうに。

40 盲人バルテマイ——ある日のことです。ずっと昔の話ですが……もしあなたが今、その場所に行って、彼が座っていたとされる壁の文字をご覧になれば、あの叫び声の群衆の中で、彼の声など聞こえるはずがなかったとわかるでしょう。

けれど、その盲目の乞食の信仰が、カルバリに向かう道を進んでおられたイエス様の足を止めたのです。

そして主は振り返られて、こう言われました。「あなたが信じたとおりになるように。」

人々の信仰……ご覧なさい、あの女性のことを。イエス様の衣に触れたとき、イエス様は「わたしがあなたを癒した」とは言われませんでした。「あなたの信仰が、あなたを救ったのだ」と言われました。

今、この集会の間にイエス様が戻ってこられ、ご自身をその御民を通して現し、聖書の中でなさったのと同じことをここでも行ってくださるなら——

それは、私たちがまさに聖書の時代に生きているという証拠となり、あの時代と同じ信仰が今ここにもあるということになりますよね？ そうでしょう？

それによって、私たちはイエス様が確かによみがえられたのだということがわかるのです。

それを信じ、受け取るという方、どうか手を挙げてください。スタジアム中、どこにいても。——はい、素晴らしいです。

41 もし今夜、イエス様がここで、かつて地上でなさったのと同じことをしてくださるなら——それは、なかなか大きな挑戦ですね？

神の御子が……でも、こう信じてください、皆さん。私が信じているのと同じように、あなたも信じなければなりません。中途半端な態度ではいけません。これは「正しいか、間違っているか」のどちらかです。

これは真理か、そうでないか。神が神であるか、神でないか。私は、はっきりとそう信じています。

神が約束をされたのなら、神はその約束に責任を持たなければなりません。もし神がそれを果たされないなら、その約束は価値がないということになり、私の言葉と同じようなものになってしまいます。

でも、神はご自身の言葉を必ず守られます。あなたが神の側に立つなら、神もあなたの側に立ってください。

あなたが信仰を持って一歩踏み出し、神の御言葉をそのまま信じるなら、神は必ず働かれます。

だから今夜、あなたの信仰を十字架に向けて、主を見上げ、信じてください。

そして今、私は信じます。——いや、「神がそうされる」とは断言できません。私は知りません。神は神です。

でも、もし今夜、主がこの会場にご臨在くださり、まさにここにいる私たちの前で、地上におられたときと同じ「しるし」を見せてくださるなら、それはイエス様が確かによみがえられたという、まったく確かな証拠となるでしょう。そう思いませんか？

それこそ、「絶対に誤りのない証拠」です。

それでは、祈りましょう。

42 天の父よ、

一日の長い旅路に疲れました。

どうか今、ここにきてくださいますように祈ります。

主よ、今夜、ここは数年ぶりの屋外での集会であり、新しい場所です。

けれども私は、見知らぬ人々の中にいるとは感じていません——

ここにはあなたの民がいて、あなたを愛している人たちばかりです。

私は、あなたの御言葉を聞き、彼らに大胆なチャレンジを語りました。

どうか天の神よ、今、私を助けてください。

この人々を、あなたの聖霊によって油注ぎ、

あなたのしもべにも油を注いでください。

そして主イエスご自身が、今夜ここに待ち望んでいるこの聴衆に

「主は地上におられる」——「死んでなどおられない」——

「私たちと共におられる」——ということをお示しくくださいますように。

そしてご自身の目に見える再臨の時までは、

確かに私たちと共にいてくださるということを証してください。

父なる神よ、

この祝福をお与えください。

イエスのお名前によって祈ります。

アーメン。

43 【テープの空白部分】

このご婦人は私にとってまったくの他人です。

生まれてこの方、一度もお会いしたことがありません。

彼女のことは何も知りません。

私たちは他人同士ですね？ そうでしょう、奥さん？

まったくの初対面で、お互いに何の知識もありません。

けれども、イエス様は彼女の事をご存知です。

私たちはおそらく、何百マイルも離れた場所で育ったでしょうし、

これが生涯で初めての出会いです。

でも、主は私の事をご存知であり、彼女の事もご存知なのです。

私が彼女に何かを申し上げるとすれば、

それはこの世の知識ではなく、

何か超自然的な源から与えられるものでなければなりません。

そうでしょうか？ そのように信じておられますね、奥さん？

では、皆さん、どうか厳かにしててください。

私は今、主のご臨在を待ち望んでいます。

そう、それがまさしく真実です。

私はただの人間です——そうです。

でも、主がここに来られるとき、

私はそれがわかるのです——あなたもきっとわかるでしょう。

ですから、私は今、そのお現れをただ待っているのです。

そのとき、「Only Believe(ただ信ぜよ)」の歌が始まりました。

44 では、主があなたを祝福されますように。

どうかそのまま席にお着きください。厳粛な気持ちで、動き回らずにいてください。

そして、若い兄弟たちが、主のご臨在を感じ取ったときに、集会を終えることになります。

もちろん私は……主が一旦働かれ始めると、その後は私にはわからなくなります。

そのため、後でテープ録音を聞いて内容を確認するのです。

そうすることで、主が何を語られたかを私は知るので。

そして、どうか覚えていてください。主が語られたことは、すべて絶対的に真実です。

語られたとおり、正確にそのようになります。

でも、肝に銘じてください。

それが私の言葉であろうと、あなたが耳にするのは——

「主がそう言われた(thus saith the Lord)」という言葉です。

そのとき、それは主ご自身が語っておられるのです。

さて、この女性がここに立っていますが、

私はこの方を知りませんし、彼女も私のことを知りません。

でも、神は彼女をご存知です。

ですから、私がこの方が何のためにここに立っているのかを知る唯一の方法は、

超自然的な源からの啓示でなければなりません。

そうですね、奥さん？

そして、何が語られたかをあなたがどのように受け取るか——

それによって、あなたが願っているものを受け取れるかどうかが決まるのです。

では皆さん、しばらく祈りましょう。

45 天のお父様、私たちは今祈っています。...これがその瞬間です。今がその時です。これは、みことばが宣べ伝えられた後の今の始まりです。これがマコン会議の始まりです。主よ、私と一緒にここに座っているこの小さなグループの外にいる人、トムズ兄弟とビーラー兄弟、男の子を知りません。

神様、あなたが今私を助けてくれることを祈ります。私があなたの意志に反することをしたなら、許してください。彼らが今夜私のリスナーとしてここに来るので、この聴衆を許してください。あなたの血が彼らの一人一人をすべての不義から清めることを祈ります。すべての疑いと懐疑論者を取り除いてください。悪魔がすべての土地から去りますように。私たちはこの根拠を現在および今後のサービスのためにあなたに捧げます。

そして今、主イエスによって約束された聖霊が、「私がすること、あなたもさらに、私が私の父に行くからです」と約束しましたように。私たちは、彼が今来て、彼のふさわしくない僕に油を注いで、私の唇が彼に使われ、聞き手の耳が主の言葉の聞き取りに割礼を受けるように祈ります。イエスの御名によってそれを尋ねるからです。アーメン。

46 さて、マイクの技術者またはエンジニアはそれを声に出さなければならないかもしれません。なぜなら、それがどれほど大きな声で話すかわからないからです。バルコニーで大丈夫、周りの音が聞こえますか？できますか？ 良い。さあ、敬虔になりなさい。

さて、神の栄光と神の国の建設のために、私はここですべての霊をイエス・キリストの名において私の支配下に置きます。

だから、ちょっとお話ししたいと思います。さて、私はあなたとの会話を順番に行わなければなりません...私たちの主のように、ほら。彼は井戸で女性が彼のところに来るのを見つけました...多分父は彼にそこに行くように言ったのでしょう。父が私にマコンに来るように言われたと思います。まあ、もしそうでなければ、私は来なかっただろう。ですから、私は今夜、聖霊の導きによってここにいるように感じます。

そして、私が言ったように、私たちはお互いに見知らぬ人です。私はあなたを知りません、そしてあなたは私を知りません。しかし、あなたは何かが起こっていることに気づいています。聴衆の近くにいる誰かが今女性の顔を見ることができたら...ほら、彼女は彼女が男性以外の何かの前にいることに気づきます。そうだとすれば、レディ、手を挙げてください。そうです、ほら。

47 彼らがここテキサスで撮った写真、あの天使を見たことがありますか？ 彼らはここでその写真を手に入れました。ワシントンDCにあります。はい。さて、それはまさに私とあなたの間に立っているものです。あなたが見えるかどうかはわかりませんが、女性は私から離れ始めます。そしてそれは動いています。女性は何かに腹を立てています。彼女は緊張している。それは正確には自分自身についてはありません。「いいえ。そうです。」それは子供についてです。「アーメン。」そして、その子供は血の状態があります、「アーメン。」血に何か問題があります。それはRh病と呼ばれています。「そうです。絶対に。」そして子供...私はそれがあなたに話しかけようとしているのを見ます。それはある種のものを持っています...そのスピーチは正確には正しくありません。「正解。絶対に。」そして、それは寝たきりです。それはベッドの中にあります。「絶対に」そしてそれは約11歳です。「まさに11歳。」

私たちの天の父よ、今、憐れんでください。私は、あなたの御霊が近くにいるように、私たちがあなたに求めていることを祝福し、それがそれでも見つかるように、神に祈ります。私たちはそれをイエスの御名によって求めます。アーメン。

さて、私の妹、それは本当でした、それはすべての言葉でした。さて、あなたがそのハンカチであなたの目から拭いた涙、あなたはそれを取り、子供にそれを置きます。週の終わりに、あなたは私に子供に何が起こったのかを知らせてくれました。

48 信じますか？ 今、彼の存在、彼の威厳、栄光の王がここにいます。さて、ただ本当に畏敬の念を抱いてください。信じれば、神の国と神の力を見ることが出来ます。

さて、私はあなたと私も見知らぬ人だと思えます、私たち、女性ですか？ 私たちはお互いに見知らぬ人ですが、主イエスにとっては見知らぬ人ではありません。あなたは信者だからです。さて、もしあなたについて何か間違っていることがあれば、それは何らかの超自然的な資源から来ているに違いありません。その時は少し緊張していますね。あなたはそうです。しかし、緊張しないでください。そうではありません...もちろん、あなたは眼鏡をかけているようです。それはあなたの目に何か問題があることを私に知らせてくれるでしょう。しかし今、あなたはただ敬虔になり、油注ぎに関しては彼に話をさせましょう。

49 そこで何かが起こった。さて、ちょっとこのように見てみましょう。はい、奥様、どこかから来ているのが見えます。それは外れています...それは診療所です。あなたは出身です...あなたは医者のお世話を受けてい

ます。そして、ああ、私はあなたの後に黒い影が見えます。それは癌です。あなたは癌を患っています。そして、その癌は胃の中にあります。そして、医者はおあなたが元気になれないと言ってあなたをあきらめました。それは本当ですよね？ ええと、もし彼がここにいて、今ここに油そそがれた霊がいるなら、それが真実であることをあなたは知っているでしょう。大丈夫、それから彼は言いました、「これらのしるしは信じる彼らに従うでしょう：彼らが病人に手を置くならば、彼らは良くなるでしょう。」それは本当ですか？ ちょっとここに来てください。ちょっと頭を下げましょう。

私たちの天の父、死がこの女性を一周し、彼女を追いかけいています...あなたのしもべ、医者は、彼らがする方法を知っているすべてをしました。しかし、この恐ろしい悪魔は彼らから隠れました。彼は彼らには多すぎる。しかし、父よ、彼はあなたにとってあまり多くはありません。あなたはすべてのことを知っていて、すべての力を持っています。そして、この命を救うために、私の妹、私は聖書によると、イエス・キリストの名において、癌と呼ばれるこの悪魔を叱責します、そしてそれが彼女から出て、二度と彼女を煩わせないように。神の栄光のために私たちはそれを求めます。アーメン。

50 さて、これは金曜日です。月曜日、あなたは本当の、本当の病気になるでしょう、ほら。今から月曜日の間のいつか、本当の、本当の病気。あなたはあなたがほとんど死ぬだろうと思うでしょう。それはしばらく続くでしょう。それは成長です—死んでいますね。その後、週末に戻って、気分を教えてください。さあ、好きなように食べてくださいね。

親愛なる友よ、神に感謝しているとしましょう。気づかないかもしれません…

そこに座って、神がその破裂からあなたを癒してくれると信じますか？ 彼があなたを元気にしてくれると信じますか？ あなたは破裂しています。あなたはしたい...あなたはそれをうまくやりたいです。よし、立ち上がって癒しを受け入れてください。神はあなたを祝福します。

51 信仰を持ちなさい。ただ信じてください、見てください。ほら、あなたはあなたの祈りのカードを必要としません。あなたには信仰が必要です。さて、死からよみがえられた神の御子である主イエスが今ここにいます。それが彼の霊です。信仰を持ちなさい。

さて、私は、女性、あなたと私はお互いに見知らぬ人だと思います。私はあなたがされているのを見ます...ああ、それは盲目の女性です。大丈夫、どこでも、みんなに頭を下げて欲しいです。女性の盲目。もちろん、私は彼女のために祈る以外に何もすることはできません。そして、彼女はあなたにも祈ってほしいのです。もしあなたが盲目だったら？

さて、できればこのように頭を下げてください。さて、悪魔学とは何ですか、レディ：それはグリップです。聴覚障害者の霊が人から出たときに言ったように。言い換えれば、彼の耳には何かがあり、それが緩むと、その人はそれを聞くことができました。

イエスは盲目の人のために祈りました。彼は祈られた後に見ることができました。私はあなたの兄弟です。心から信じてほしいのです。そして今、この風をあなたに吹き飛ばす神があなたを元気にするためにここにいるのです。そして、すべての目は閉じたままです。なぜなら、これらは霊的なものだからです。

52 さて、私たちの天の父は、ここに立っているこのかわいそうな姉妹のところまで歩いて行き、暗闇の世界を歩き回っています。彼女の目の神経：死んで、固まっていく。しかし、あなただけが彼女を癒すことができます。そして、父よ、あなたが今夜それを与えてくださるよう祈ります。主よ、私たちがあなたの目に恵みを見つけたなら、今夜もそうなりましょう。この集会の終わりに、この女性があなたを賛美して歩き回り、神が彼女の癒しによってどんな素晴らしいことをされたかを人々に示しますように。それが彼女のコミュニティで昔ながらのリバイバルを引き起こしますように。主よ、それを認めてください。あなたがたが信じるなら、あなたはできると言った。

さて、あなたを代表する私のふさわしくない手が彼女の目に置かれた状態で、私は盲目がなくなるようにお願いします。なぜなら、そこに立っている主イエスを信じて、私たちの不信仰を許してください。そしてこの女性を縛っている盲目の霊が彼女を去ってくださいますように。神の御子イエス・キリストの御名によって行くようにお願いします。

53 さて、皆さんはほんの少しの間頭を下げ続けますか？ 今、あなたはただあなたのふたを下に保ちます。さあ、頭をこのようにしてください。さて、神よ、そうさせてください。目を開けて、今私に目を向けてほしい。会いましょう？ 見えますか？ [女性は「はい」と言います。]私の鼻に手を置いてください。あなたがそれをす

ることができるのを見させてください。大丈夫、そうです。

頭を上げてよい。ここで見てほしい。レディ、そこが見えますか？できれば手を挙げてください。もしあなたがそれらのライトがそこにあるのを見ることができるなら。できれば手を挙げてください。このように向きを変えてほしい。私の手が見えますか？[女性は「はい、先生」と言います。]私が何本の指を持っているか教えていただけますか？[女性は「4つ」と言います。]その通りです。さあ、見て、私の鼻に指を置いてください。あなたはあなたの視力を持っています。

54 「神に賛美を」と言いましょ。さて、見てください、レディ、これが何が起るかです。ほら、盲目の霊が今あなたを去ります、ほら。そして、あなたの目の中で死んでいた神経はちょうど振動し始めています。かっこいい気持ち。今、あなたは感じるでしょう...明日はさらに良く見えるでしょう。翌日あなたは...しかし約72時間、それからあなたは再び本当のダークブラインドに行くでしょう。そして、そうすると、それが出てきます。その時それはなくなります。今疑わないでください。喜んであなたの道に行き、感謝と幸せになってください。一人でこの道を歩けないか見てみましょう。すぐに行ってください、見てください。

「神に賛美を」としましょ。皆さん、このように神様を褒めましょ。[プロ。ブランナムと聴衆は手をたたきます。]ただ神を賛美しなさい。アーメン。大丈夫です。さあ、頭を下げましょ。

天のお父様、私たちはあなたのすべての善と憐れみをあなたに感謝します。そして私たちは、神様、あなたが非常に豊富に行い、あなたが神であることをあなたの民に示すように祈ります。私たちはそれにイエスの名前を尋ねます。アーメン。

55 大丈夫です。ああ、私の、それはあなたに彼を愛させますね？ただ何を見てください...女性はすぐに彼女の席に戻ります。「神に賛美を」としましょ。アーメン。それで結構です。

さて、レディ、あなたは盲目で癒されました。そこにあなたの隣に座っている男がいます。彼は高血圧で、癒されたいのですよね？もしそうなら、立ち上がってください。私がおあなたに真実を言ったなら、立ち上がってください。さあ、家に帰りましょ。あなたは元気です。イエス・キリストがそれをしました。信じますか？アーメン。

さて、あなたの隣に座っている男は、目がおかしいので、彼も癒されたいと思っています。そして、彼は耳にも何か問題があります。そして彼は癒されたいのです。今、あなたは彼に手を置くと、彼は癒されます。それだけです。

天のお父様、私は主イエスの名においてその霊を叱責します。そうしてください。アーメン。

56 [テープの空白部分。]さて、あなたの隣の男が手を挙げました。ヘルニア、破裂で癒されたいですか？あなたは神がおあなたを元気にしてくれると信じていますか？しますか？それらの2倍、彼はそれらを両方ともうまくするでしょう。神がそれをしてくれると信じますか？もしあなたが立ち上がって「私はそれを受け入れます」と言うなら。ただ立ち上がって、受け入れると言ってください。そうです。「神様、ありがとう」と言ってください。大丈夫、あなたは今家に帰って元気になることができます。アーメン。生ける神を褒め称えましょ。信仰を持ちなさい。

イエスは、「あなたが信じるなら、あなたはできる」と言われました。アーメン。それが信じる方法です。今すぐ動き始めてください。何かがおあなたを襲ったね、兄弟。ほら、祈りのカードは必要ありません。あなたが必要とする唯一のものは信仰です、そして神がその仕事をしてくださいます。アーメン。それは本当です。ただ彼を信じなさい。彼は神であり、失敗することはできません。

57 その時、その出会いに闇の精霊が渦巻いているのが見えます。どこに行ったのかわかりませんでした。はい、そうです、ここに座っているこの女性の上にいます。てんかんです。レディ、あなたはイエス・キリストがそのてんかんであなたを元気にするだろうと信じていますか？立ち上がってください。

私たちの天の父よ、私たちはその悪魔を叱責します。サタン、あなたは露出しています。そこから出てきてください。イエス・キリストの名において、私たちはあなたを裁きます。アーメン。

信仰を持ちなさい。それは良い初夜の信仰ですよ？「アーメン」と言います。それは本当にです。心から信じてください。何が悪いのかに関わらず、あなたは元気になることができます。私がおあなたにお願いする唯一のことは、神を信じることです。彼がそうであると信じてください、そうすれば彼はあなたにそれを与えてくださいます。

58 大丈夫、あなたは心から信じますか？ あなたが信じるなら、まあ、神は非常に、そして豊富に、そして何よりも私たちができることや考えることができることをすることができます。「コースは個人の責任ですよ？ あなたが何を考えようとも、あなたがそれについて何を信じようとも、まあ、神はそれを行うことができます。そうじゃないですか？

私たちはお互いに見知らぬ人です。私たちはお互いを知りませんが、神は私たち両方を知っています。そうじゃないですか？ アーメン。ああ、私の、あなたが私を狂信者と分類しないことを願っていますが、私はこの種の信仰を最初から見てとてもうれしいです。10泊で何になりますか？ 私、それは素晴らしいでしょう。そんなに信じていないと思いました。私は本当にしませんでした。しかし今、あなたは神の国に入っています。彼はあなたのためにいくつかの素晴らしいことをすることができます。アーメン。

59 さて、あなたはただ私を彼の預言者として見えています...あるいは、しもべであり、心から信じて、イエス・キリストがあなたを助けてくださいます。私は信じています。そして、もし彼がそうするなら、あなたは感謝し感謝するでしょう。そうですか？

あなたはこの国の出身ではありません。あなたはどこかからここに来ました。あなたは何かに苦しんでいます。それは腎臓にあります。そして、それは腎臓の腫瘍です。そして、あなたは北から南に向かって来ました。あなたはカロライナから来ました。あなたはグリーンウッドという名前の都市、またはそのようなもの、グリーンウッド、サウスカロライナ州から来ました。それは本当です。そして、あなたは説教者です。そして、あなたの名前はウィリアム・ロジャース牧師です。そうですか？ 兄弟よ、家に帰ってください。主イエスがあなたを神の栄光のために元気にしてくださいますように。アーメン。

神を信じなさい。信じています。信じる者にはすべてのことが可能です。「もしあなたが信じられたら……」あなたは「奇妙なの？」と言います。ああ、いや。イエス・キリストは昨日と同じですよ？ アーメン。さて、ただ……聖書は、「あなたが信じることができれば、すべてのことが可能である」と言っています。

60 私はこの私の上のビジョンの中に立っているのが見えます。ここに座っているこの男の上にヤシの木のような木がぶら下がっているのが見えます。はい、彼は女性のそばに座っています。そして、彼は関節炎を患っています。彼女は胆嚢に問題があります。それは夫と妻です。はい、そしてあなた方は皆フロリダと呼ばれる場所から来ています。そして、都市の名前、それはペリーのようなものです。P-e-r-rそうではありませんか？ そうであれば、立ち上がってください。あなたは家に戻って元気になります。イエス・キリスト、あなたの信仰はあなたを癒し、あなたを元気にします。今、あなたの関節炎はすべてなくなり、あなたは元気です。

信じますか？ 信じる者にはすべてのことが可能です。もしあなたが信じることができれば...今、あなたがそれを信じるだけで、あなたのグループ全体が癒される可能性があります。それはぼやけ始めています...あなたがただ信仰を持つことができれば、それはあなたの何が悪いのか何の違いももたらさないのです。ただ見続けてください。信じ続けなさい。

61 ここに座っている男性が私を見ているのが見えます。私は信じています、それは...このラインにあります。彼は私に目を向けています。彼は手術を受け、手術を受けました。胃の一部を切り落としています。胃の約3分の2が取り除かれ、胆嚢が取り除かれました。そして、あなたは2回の心臓発作を起こしました。そうです。そして、あなたは説教者です。大丈夫、家に帰りなさい。ここに来る必要はありません。あなたは癒されています。イエス・キリストはあなたを元気にします。アーメン。

心から信じますか？ 信仰を持ちなさい。疑わないでください。心から信じてください。昔の聴衆の中にはどうですか？ ずっと前に、あなたは彼を信じますか？ あなたは神の国を見るでしょう。あなたは彼が死からよみがえったと信じています、彼はもっと永遠に生きていますか？ 神を信じなさい。ああ、私の、あなた方全員が今、グループ全体を癒すことができます。

62 信じますか、レディ？ あなたは...それは患者ですか？ これは...これは患者ですか？ よし、ちょっとこのように見てください。今、私たちはお互いに見知らぬ人です。神は私たち両方を知っていますね？ さて、聴衆には、ほら、あなたがしなければならない唯一のことは、友達……それは私ではありません。あなたがその人です。あなたの信仰がそれをしているのです。それをするのはあなたの信仰です。ほら、それは私ではありません。それは神の賜物ですが、あなたはそれから引っ張っています。分かりますか？ そして、それは私をとても弱くしているだけで、私はここに立つことがほとんどできません。私の足は私の下で曲がっています。ああ、この会議はどうなるのだろうかと思っています。素晴らしい。

63 今、信仰を持ってください。信じなさい。さて、ここに女性が立っています。私は私の人生で彼女に会ったことはありません。私は彼女について何も知りません。神は彼女のことをすべて知っています。私はしません。しかし、神はそうします。神がその女性に...彼女または彼女がここにいる理由について何か言わせてくれるなら...私は彼女が何のためにここにいるのかわかりません。神は彼女が何のためにここにいるのかを知っています。私はしません。神はそれを知っています。しかし、彼はそうします。そして、もし神が彼の不採算の僕を通して、ちょうど彼がイエス、彼の息子を通して、彼女の問題があった井戸でその女性にしたように、彼が死からよみがえられたと信じて、彼はここでも同じですか？

64 さて、これは同じです：男性、女性。そして、それはそれがそこにあった方法です：男性、女性。イエスは彼女を見たことはありません。彼女は彼を見たことはありません。彼らはお互いを知りませんでした。しかし、彼は彼女に数分話し、彼女の問題が何であるかを正確に話しました。彼女の問題は何でしたか？そして彼女は、「メシアがいつ来るか知っています、彼はこれらのことをするでしょう」と言いました。

彼は言った、「私は話す彼です。」

さて、救世主は今ここにいる方です。彼がその仕事をしている人です。神がこの女性に超自然的な領域で何かを知らせてくれるなら、あなたの何人が今、ここにいるすべての人が彼、キリストをあなたの癒し手として受け入れますか？ やってくれませんか？ できれば手を挙げてください。そうするならどこでも手を挙げてください。あなたはただ一晩中続けることができますが、それはどうでしょうか。皆さん、今すぐ癒されましょう。ですから、あなたは誰もが癒され、神を賛美することができます。

65 ここに、「キリストが成し遂げられたのを見ることができれば、私はキリストを受け入れる」と言う罪人がいますか？ 私はそれを心から信じ、キリストを私の救い主として受け入れます。」どこでも手を挙げてくれませんか？ どこでも...？ それで結構です。神はあなたを祝福します。それは良いことです。神はあなたを祝福します。さて、彼がそれを認めてくださいますように。

さて、ちょっと待ってください。さて、レディ、私はあなたに僕のように私を見てほしいのです。そして、私はあなたを知りません、あなたに会ったことはありません。しかし、もし神があなたが私に会うためにここにいることを私に知らせてくれるなら...あなたは何かのためにここにあります。あなたが欺瞞者である場合、それはちょうど数分で正確にあなたに告げるでしょう。そして、あなたが助けを求めてここにいるのなら、私は彼が私に言われたこと以上にそれをするにはできません。そうじゃないですか？ 私にできることはそれだけです。なぜなら私はあなたを知らないからです。あなたは私を知りません。しかし、彼は私たち両方を知っています。それで、神はそれが今夜ここで危機に瀕していることを知っています、それが遅くなっているとき、10時過ぎに：おそらくこのスタジアムを閉鎖する時間よりもずっと遅いです。しかし、今癒されている人々のグループがあります。だから、私は彼がそれをするだろうと信じていますね？

66 さて、神はそこにいる人々が私たちがお互いを知らないことを理解しているかどうかを知っています、そのようにあなたの手を上げるだけで、彼らは私があなたを知らない、あなたが私を知らないことを知るでしょう。大丈夫、私たちは見知らぬ人です。「あまり私たちが...あなたは私やそのようなことを聞いたことはありません。今回は初めてのミーティングです。私はあなたがここに何をしているのか何も知りません。私はあなたを知りません、このどこかに列に並んでいる女性だけが私が知っているのはそれだけです。

さて、ちょっと私を見てください。私はそれを意味するものではありません。ちょうどこのように：ピーターとジョンは門で不自由な人に言った、「私たちを見てください」と。言い換えれば、「注意を払う」を参照してください。そして彼らは見上げた。ペテロは信仰を見ました。彼は言いました「立ち上がってキリストは彼を癒されました。」さて、彼は同じ主イエスです。そして、彼がこの女性のためにここで何ができるか、彼は聴衆の至る所でできるのです。

67 さて、そもそも、あなたは状態、精神的な状態のためにここにあります。そうです。あなたは霊的な助けを求めています、最近いくつかの問題を抱えています、あなたに続く暗闇、緊張、動揺。それは人生の時がそれに転がっているだけです。あなたはこの街の出身ではありません。あなたは出身です...あなたはこの方法から来ています。あなたはテキサス出身です。そして、その街はスウィートサムのように呼ばれています...スウィートウォーター、そのようなもの、テキサス。そうじゃないですか？ あなたは元気な女性の家に帰ります。イエス・キリストがあなたを癒してくださいました。悪魔があなたを去りました、そしてあなたは自由です。アーメン。

何人が心から信じていますか？ 今、心から癒されたいと思っている人は何人いますか？ あなたが今こ

れをするなら、あなたは癒されることができます。皆さん、立ち上がってください。できる限り、今すぐお互いに手を置いてください。信じなさい。

68 私たちの天の父、私は今、主イエスの挑戦的な名前でやって来ます。私はすべての病気を非難しません。そして、これらの人々を悩ませている悪魔をイエス・キリストの名によって出させてください。

今ここにいるあなた方一人一人は、今主イエスを信じ、主があなたを癒され、手を挙げて、彼を賛美します。手を挙げて、「主イエスよ、あなたを賛美しなさい」と言ってください。アーメン。どこでも「主を賛美しなさい」と言ってください。主をたたえよ。主をたたえよ。私が兄弟に奉仕をしている間、今は元気な人を家に帰らせてください。アーメン。



www.messagehub.info

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7